

# 同窓会会報

昭和40年1月10日  
 茨城県東茨城郡  
 内原町内原  
 同窓会  
 印刷所  
 山田印刷所  
 TEL (2) 5480  
 ・8096

年頭にあたって

学園長 鞍田 純

本年の秋には、学園の前身であつた全園農業会の高等農事講習所が創設されてから満二十年になります。私が飛びこんで来てからでも十七年になるわけです。考えてみると長いようでも、私にとっては、あつというまに過ぎてしまつた九十七年でした。

今日では、学生は、農業科園芸コース、稲農コース、農協科、農村生活科、特別専科（農業後継者養成）農業改良普及員通信教育などのコースにわかれて、それぞれ幾分専門化した学習をしています。これらの学生のうち、特別専科の学生は茨城県の委託学生が中心ですが、その他は創設当初と同様に、全国から集つてきています。数年前からは、沖縄からも年々数名の学生が来ています。従つて卒業生は、沖縄を含む全国に散つて、新しい農業や農村の生活文化の創造に精進しています。卒業生は、本科卒業生約千七百名

通信教育修了者その他を加えると二千名に達しました。卒業生の仕事の分野は、自ら農業に従事する者、農協関係に勤務するもの、農業や農村生活の改良普及事業に従事するもの、農業関係の行政や教育機関、会社などに勤務するもの、と四大別されますが、それらがおおよそ同数、すなわち二十五名前後づつになつています。学園の卒業生は、おおよそこんな四方面から、新しい農業や農村の生活文化の創造に精進していることになりま。

周知のように、今日の日本の農業や農民生活は、極めて困難な立場におかれまわつていますが、卒業生諸君はみなそれぞれ、生涯をかけて、その困難ななかで精進し続けています。全国各地でのそんな卒業生の諸君の精進に励まされて、私たちが学園の教職員も微力をつくすことができ

生諸君への挨拶にかえました。

あいさつ

同窓会長 萩原 耕(二期)

卒業生諸君の一部からは、時々、十年一日の如くに発展しない学園の現状だとして、おしかりを受けています。私たちが、自分たちの微力を、よくよく知らされていきます。だがどう考えてみても、私たちに矢張り、こつこつと微力をつくしてゆくよりほかに、途はないように思われます。ローマは一日にしてならず、という言葉もあります。協会の理事たちも、学園の教職員も、卒業生諸君も、学生諸君も、みんながそれぞれの立場で、学園創設の理想を目指して、一多づつ努力してゆくことのなかにこそ、学園の理想を実現させる力がひそんでいるのだと思つていきます。

私たちは、学園の理想を実現させるエネルギーと、新しい農業や農村の生活文化を創造するエネルギーとは、不可分の同一物だと信じています。そんなエネルギーが、今後入学してくる学生を含んだ総べての学園の関係者にひそんでいれることを信じ、それに希望をかけて、微力をつくしているわけですが、卒業生諸君の、それぞれの道での、ご精進を、心から祈つています。今更特別に申上げることもなく、たわけですが、与えられました機会に、学園の近況の一部と、日頃の私たちの敬意の一端とをのべて、卒業

学園創立二十周年の記念すべき年を迎えるにあたり、そして記念事業実施も決定した第六回定期大会において、会長に推されたことは、たいへん光榮ですが、何しろ万事中途半端を自分なふりかえつてみると、荷が重すぎて、はたしてやれるだろうかという気が、その日つまり十一月三日からずつと統いてあります。しかし松村前会長や事務局のさむらい達にハッパをかけられたその効果があつたのか、一つこの辺で心を入れかえて、：：：といつた殊勝な気持ちも湧かないわけではありません。

とにか、新執行部のさむらいどもは張切つております。その熱気の中で、私も責任を果たして行きたいと考えています。同窓のみなさんの活動に期待し、ご協力を願ひします。常任委員 鞍田 保(四期)

速くはなれ、ときがたつにしがたつて学園とも疎遠になりがちです。私も今回久しぶりに学園を訪れる機会を得ましたが、学園もときの流れとはいえ、あまりにもさびしさを感

じます。少くとも同窓会諸賢との絆をかたくし、ともに学業の発展のために努力したいと思ひます。

常任委員 山下耕一(七期)

同窓会も歳暮が大きくなるにつれて、事務局も大へんでしよう。家族的でなく、組織化され運営に在るよう努力ながら頑張りたいと思ひます。会員の住所不明の解消、相互の連絡を密にしたいと念じ、その窓口としての機能が果せられれば幸いです。

拜啓 同窓生諸君殿

常任委員 渡辺正信(七期)

貴下が社会に出てから日本農業のためにたゆみなき努力を重ねられ、多くの人々に認識される活躍をなされておられる姿はまことに頼もしい限りである。

悩み多い農業の現状にとらわれ、貴下の管でのふる里、襟川の学園を思い出される事も少いのは無理からんこととは思はれるが、定つたとはいえず今お昔の面影を残した学園に暫し憩い、新しい英気を養はられるのも意義あることと思ひが如何に。本年学園に無難沙汰していると何んとなく縁が薄くなつた様を気がしたり、同窓会費もどつさり納めねばと、つい億劫になりがちだが心配召

さるを、先日小生が同窓会に出席すると云つたら八期のK氏が十年分の会費として二千元を托したので一そんなに出すならお前も一緒に行けよ」と云つたら「どうもきまりが悪いからこの次に出るよ」といつたのでその会費を懐に勇んでかけたところ「二千元をなんていらぬ、二年分の会費四百円だけで結構、なんで彼を連れてこなかつたか」と先生始め皆残念がつていた。帰つてM氏に親金を返したのはいいまでもないが、彼と似た様を氣持の諸君も多い事と思はれるが……世智辛い今の世にあつてはほのぼのとした温いムード

整れる学園も来年は二十周年、新しい日本農業の同拓を目指して今後も歩み続けるために貴下の絶大なる声援と支持を期待してやまない。

入学志願者募集について

の協力方お願い

教育課長 近 秀次

寒さ酷しい折柄、卒業先の皆さんには、それぞれの分野で御健闘の事と存じ、お慶び申し上げます。私共も学園創立二十周年の記念すべき年を迎え、今年こそは意義ある年にしたいものと張り切つております。

さて、入学志願者募集については毎年調高配をいただいておりますが

今年も同窓の学生募集要項に「より志願者募集を始めております。最近の入学志願の状況は幾度か低調で、ここ兩五年は志願者一五〇名を越える事がなく、甚だしい状態でもあります。今日のような社会経済情勢のもとで、農業関係、殊に学園のように特殊な農業教育機関である意味では已むを得ないとも思はれますが、せめて二〇〇と三〇〇名の志願者は得たいものです。

この希望も、今日一、六〇〇名をこえる同窓生の皆さんの積極的な御協力、御尽力があれば不可能ではないと思つております。送考方法も、三十七年度から筆記試験は行なわず、文書送考とし、農協中央会などをはじめ各方面に学生募集の依頼をしておりますが、卒業生の皆さんも学園の学生としてふさわしい人を積極的に探し、入学をすすめていただきたいと思つております。私共も、教育内容の充実により一層努め、皆さん方の期待に反しないよう努力して参りたいと思つております。

### 事務局通信

一 第六回同窓会大会開催される

昨秋十一月三日、文字通り北は北海道、南は鹿児島から、駆せ参じてくれた皆さんは百名に近く、数年あつては十数年の遅延にみんな手を取りあつて喜びました。遠路しかも多忙を日課をやりくりして、わざわざ本大会のために足を運んで下さった皆さんに、私ども世話役も全く感謝しました。

二日夜はお互いの宿所で交歓や在学生との懇談、三日午前中は講堂において会議、午後はグラウンドで教職員を交えての懇親会、さらに来賓宿舎での九期生会、尽きぬ名残りを惜しみながら、解散する頃は、鮮やかな学舎もすつかり夜のとりばりに包まれていました。

会議では恒例の如く旧年度の報告新年度の計画とすすみました。特に新年度事業としての二十周年記念事業について活発な議論が行なわれ本会としては未曾有の大事業と取組むことが満場一致可決されました。事業の達成はなかなか容易ではないと思ひますが、しかし、みんな力を合せば出来ないことはないと思ひます。私どもも全力を挙げて頑張りたいと思ひます。どうか母校

の発展のために、同窓会員の一人一人に奮起をお願いしてやみません。

昭和三十八・三十九年度  
事業報告

昭和三十七年十月二十日の第五回同窓会で決定された事業計画に基いて、昭和三十九年九月三十日に至る過去二年間に実施して来ました事業の大綱は次の通りです。

一、会員名簿の補正

昭和三十七年八月に発行した名簿（B5版、八十余頁）について、随時訂正を加え、三十八年一月に第一回正誤表（B5版四頁）を発行、同年二月十五日付で各都道府県支部長宛に名簿訂正の協力依頼をして、東京、埼玉、福井、兵庫、山口、高知、長崎の各支部長から訂正を加えていただきました。

さらに三十九年一月に十八期生名簿並びに第二回正誤表（B5版、十頁）、同年九月に十九期生名簿（B5版、六頁）を発行しました。

二、会報の発行

本件については、両年度間の発行が実現せず、今後も発行の見通しが容易にたちません。

学園通信についても、両年度中に発行したのは僅か三部（五号、三十八年三月一日付、通信教育特集号、三十八年八月二十五日付、五四

号、三十八年十一月一日付）にとどまり、今後も発行の見通しはたちません。

三、支部組織の拡充

本件についても、会報の発行が実現せず、日常の連絡も不十分であつたため、みるべき成果を上げる事が出来ませんでした。しかし各支部では機会あるごとに支部会を開催して会員相互の親睦を深めております。

昭和38.39年度決算報告の概要

〔第1表〕 一般会計

(S. 3710.1 ~ 39.9.30)

収入の部			支出の部		
科目	予算	決算	科目	予算	決算
前年度繰越金	617	617	名簿補正費	16,000	15,300
会費収入	530,000	146,500	会報発行費	112,000	—
預金利息	33,000	48,601	通信費	112,000	24,636
雑収入	20,000	714	事務費・雑費	50,000	29,832
			旅費	108,000	19,600
			会議費	50,000	46,998
			借入金返済金	20,000	4,000
			予次備繰越金	97,617	—
合計	565,617	196,432	合計	565,617	196,432

〔第2表〕 特別会計

収入		支出	
科目	金額	科目	金額
38.39年度入会金	91,000	電信電話債券購入費の1部として	50,000
貸出金返済金	4,000	預金(鯉淵農協)	45,000
合計	95,000	合計	95,000

基本金（特別会計）現在高

定期預金（証書）	常陽銀行（利率年5分5厘）	59,000
定期貯金（証書）	鯉淵農協（利率年5分6厘） No 134	45,000
"	" " No 135	190,000
電信電話債券	日本電信電話公社（利率年6分5厘）	100,000
合計		394,000

なお、一般会計への繰出金33,500円のうち、4,000円の返済があつたので現在の貸出金は29,500円になります。

昭和40, 41年度予算  
〔第一表〕 一般会計

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	56,066	名簿補正費	25,000
会費収入	400,000	会報発行費	100,000
預金利息	45,000	通信用紙費	70,000
雑収入	1,000	事務費	60,000
		旅費	60,000
		会議費	50,000
		入金返済	20,000
		借入金返済	117,066
合計	502,066	合計	502,066

昭和三十七年八月に発行しました名簿は、その後再三修正を加えて参りましたが、昨今は大幅の移動があつた上に残部も僅少となり、新入会員の受入れにも事欠く状態であり、その受入れに全面的に改正して一そう充実した名簿を発行したいと思ひます。

昭和四十・四十一年度  
事業計画

たいと思ひます。  
一名簿の発行

部数一、〇〇〇部 経費三〇〇〇円  
個人負担

発行予定期日 四十年九月一日

二 支部組織の拡充

支部長を通じた連絡をさらに充実し、同窓会組織の拡充をはかりたい。

新役員きまる

会員名簿の補正、会員相互の連絡を期して同窓会組織の拡充を期し 第六回の大会で四十年・四十一年の役員は次の通り決定しました。

- 会長・萩原耕(茨城二期)
- 副会長・和田文雄(東京三期)
- 副会長兼常任委員長・桜井昭利(学園二期)
- 委員・磯田保(東京四期)
- 同・山下耕一(東京七期)
- 同・稲田武弘(茨城四期)
- 同・石井隆夫(茨城四期)
- 同・渡辺正信(茨城七期)
- 同・藤田一二三(茨城九期)
- 監事・武内十郎(東京四期)
- 鈴木聖志(茨城五期) 吉田脩(茨城五期)

◇会費納入について一別紙明細書を個人別に同封しましたので、未納の方は至急事務局まで納入下さい。出来るだけ四〇年度四十一年度の両年度分までとめて合計四百円を納入

◇第七回同窓会大会は今年創立二十の年で十一月三日、祝賀の大会を開催することに決定しました。詳細は追つてご連絡したいと思ひますが、今から万障繰合せおき下さるようお願い致します。

◇名簿の発行について、今年九月に会員名簿を増補改訂する計画で準備

支部名	氏名	支部名	氏名
北海道	大島 健一	東京	黒木 勉
茨城	川村 栄吉	大坂府	藤田 俊邦
秋田	細野 祐一	兵庫	田中 茂
宮城	阿部 幸益	鳥取	中村 栄太郎
福島	山口 武夫	香川	河野 勝
山形	山本 学	愛媛	浜中 寿一
青森	鈴木 作栄	福岡	大西 和夫
岩手	中野 孝子	長崎	安達 和美
茨城	柴山 善吉	大分	金高 敏男
栃木	川原 義一郎	宮城	野村 邦亮
群馬	島田 喜世志	甲斐	和夫
千葉	井上 義明	水戸	照男
東京	仁木 敏二	鹿児島	親弘
	高木 敏二	東京	本宮 治男
	江草 和夫	新宮	安掛 精守
	広沢 和夫	阿部	征彦
	杉沢 泉	熊本	善明